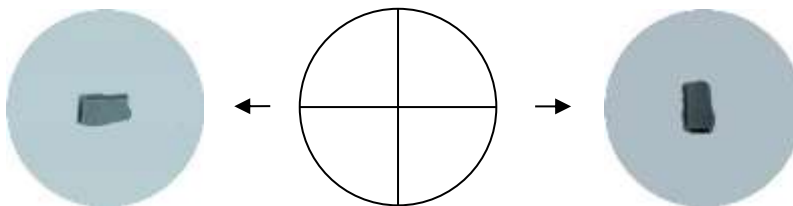


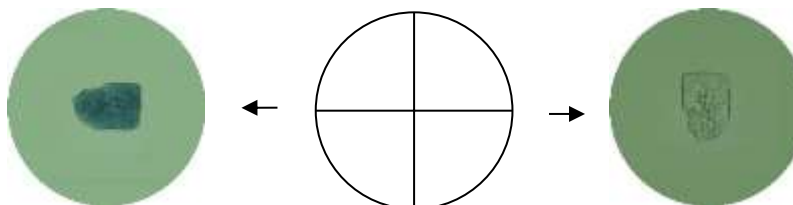
各 位 様

出版後見つけた誤りがあり、以下に加筆訂正および差し替えをお願いいたします。
差し替えに必要な図は3枚ですが、そのまま糊付け可能なように等倍になっております。
挟んでおくだけでも良いと思いますが、紛失しないようお願いいたします。

- p.4 上から 11 行目 東京自然史機構の前に、(株)古澤地質の古澤 明博士、都留文科大学の上杉 陽名誉教授を加筆願います。
p.4 上から 14 行目 福岡孝明元教授を福岡孝昭元教授に訂正願います。
p.199 表中の(熱田層)を(碧海層)に訂正願います。
p.123 堇青石の多色性の図を差し替え願います (p48~49 参照)。
p.127 大隅石の多色性の図を差し替え願います (p48~49 参照)。
p.128 大隅石の伸長方向の光学的正負が逆でしたので、差し替えをお願いいたします。



p127 大隅石の多色性の図 (p48~49 参照)



p128 大隅石の伸長方向の光学的正負が逆でした。

伸長方向の光学的正負：負(-)



また、「火山灰中の鉱物 検索・鑑定図鑑」の120~122 頁に掲載したローソン石が別物ではないかという指摘を受けました。そこで、微小領域X線回折ならローソン石か否かのデータが得られるので、図鑑に掲載した試料の分析を依頼する目的で試料を探しましたが見つかりませんでした。

そこで、新たに試料を 7kg と 3kg の 2 回に分けて洗い、重液分離やマグネティックセパレーターで濃集し、ローソン石らしい鉱物を探しましたが、図鑑に示すような鉱物は見つかりませんでした。この間 1 年半以上の日程と、数十万粒におよぶ鉱物を双眼実体顕微鏡と双眼偏光顕微鏡で顕鏡いたしました。

やや性質が類似している鉱物を 1 粒見つけたので、微小領域X線回折測定を行っていただきました。その結果は、ローソン石ではなくクリノゾイサイト(斜灰簾石)であることが判明いたしました。

ローソン石は発見できないままですが、今後も引き続いて調べていく予定です。ただ、これまで採取してきた多くの地域の火山灰が未処理のため、これらの火山灰の中にもローソン石の存在を期待して、従来の試料と並行して処理を行っていきたいと思いますが、次回からは個人々人への連絡は割愛させていただき、何かございました場合にはこの HP でお知らせいたしたいと思っております。

